

【図1】



資料: 国立長寿医療研究センター もの忘れセンター発行『認知症はじめの一歩』P.39

【表1】

	サービス名	内容	問合せ先
介護保険制度のサービス	デイケア(通所リハビリ)(テーション)	施設へ通い、生活にリズムをつける・人との交流・余暇の充実・気分の安定・活動性の向上	介護支援専門員や主治医
	デイサービス(通所介護)	施設へ通い、生活にリズムをつける・人との交流・余暇の充実	
	ショートステイ	施設へ泊り、専門家が家族介護者の代理	
	ホームヘルパー	自宅訪問し、1人暮らしで十分できない部分のお手伝い	
介護保険制度以外のサービス	徘徊高齢者等家族支援サービス	位置検索端末機の貸与	市区町村役所
	日常生活自立支援事業	日常的な金銭管理書類の預かり	社会福祉協議会
	成年後見制度	悪徳商法の契約防止財産管理	家庭裁判所
	家族教室	知識・介護方法などの講話 介護経験者との交流会	地域包括支援センター や市区町村役所
	家族サロン	日頃の介護の悩みや不安を話し合う交流会や情報交換	
	家族介護教室	介護に関する知識や技術、介護者の健康管理等について学ぶ	

資料: 国立長寿医療研究センター もの忘れセンター発行『認知症はじめの一歩』P.43~45

■認知症者の心理的解の必要性
認知症は物忘れの病気であることから、「本人は幸せである」という認識を持ついる方がいますが、そのような決めつけはできません。認知症の方と接すると、幸せそうな方もいれば、不安そうな方、沈んだ顔の方、怒っている方、興奮している方などさまざまです。もともとの個人の性格があり、それに意見を正確に伝えること

ができます。認知症が進行していきなければなりません。自分の記憶が欠落しているという認識がないことから、他者とトラブルになると、ようになります。そのためには、認知症の方と一緒に行動などから探つていかなければなりません。



龍神宣恵 作業療法士

が進行していくと、うまく表すことができなくなり、心理的苦悩

が進行していくと、優しく声をかけ、見守りながら対応します。

■いろいろな相談窓口
認知症になると、治療のこと、症状のことなど、介護のことなど、介護のことで困ったときは、介護支援専門員や主治医に相談することができます。

■いろいろなサービス
認知症になると、施設へ泊り、専門家が家族介護者の代理などがあります。地域包括支援センターは、高齢者に関する相談窓口として、地域にある窓口を活用しましょう。

■いろいろなサービス
地域包括支援センター、社会福祉協議会、保健センター、市町村役所が挙げられます。中でも地域包括支援センターは、高齢者に関する相談窓口として、地域にある窓口を活用しましょう。

■いろいろなサービス
地域包括支援センターは、認知症について相談できる電話相談窓口として「広島市認知症センター」(電話番号: 082-254-3821)があります。社会福祉士、保健師、主任介護支援専門員がさまざまな相談に対応しています。

■いろいろなサービス
午から午後4時まで(12月29日~1月3日及び祝日、休日を除く)、対応していますので、安心して生活が送れるよう、高齢者の介護度に応じた必要なサービスを紹介していますので参考になさってください。

認知症について

人の虐待や、逆に本から家族への暴力が生じたりすることもあります。そのような状況にならないためにも、何らかの問題が生じた時はどこへ相談すれば良いかを把握しておこうと同時に、つらい

生活に関するところについては、地域にある窓口を活用しましょう。いろいろなサービスを主に医療的なことはかかりつけの先生に相談するとして、実際の生活に関するところにつれては、地域にある窓口を活用しましょう。代表的な相談窓口としては、地域包括支援センター、社会福祉協議会、保健センター、市町村役所が挙げられます。中でも地域包括支援センターは、高齢者に関する相談窓口として、地域にある窓口を活用しましょう。

■いろいろなサービス
地域包括支援センターは、認知症について相談できる電話相談窓口として「広島市認知症センター」(電話番号: 082-254-3821)があります。社会福祉士、保健師、主任介護支援専門員がさまざまな相談に対応しています。

■いろいろなサービス
午から午後4時まで(12月29日~1月3日及び祝日、休日を除く)、対応していますので、安心して生活が送れるよう、高齢者の介護度に応じた必要なサービスを紹介していますので参考になさってください。

する状態になつても安心して生活が送れる

安心して生活が送れる

安心して生活が送れる

安心して生活が送れる

安心して生活が送れる

安心して生活が送れる

安心して生活が送れる

安心して生活が送れる